

JAQG 協賛メンバー訪問 ー株式会社トードインターナショナル様ー

1. はじめに

航空宇宙品質センター（JAQG）は 2001 年の創設から 25 周年を迎えます。この記念企画の一環として、協賛メンバー様への訪問を開始しました。

JAQG では年に一度、活動報告会を行い、多くのメンバーの方にご参加いただいておりますが、各協賛メンバーの方の声を十分に拾い上げられていないのではないか、という問題意識がありました。

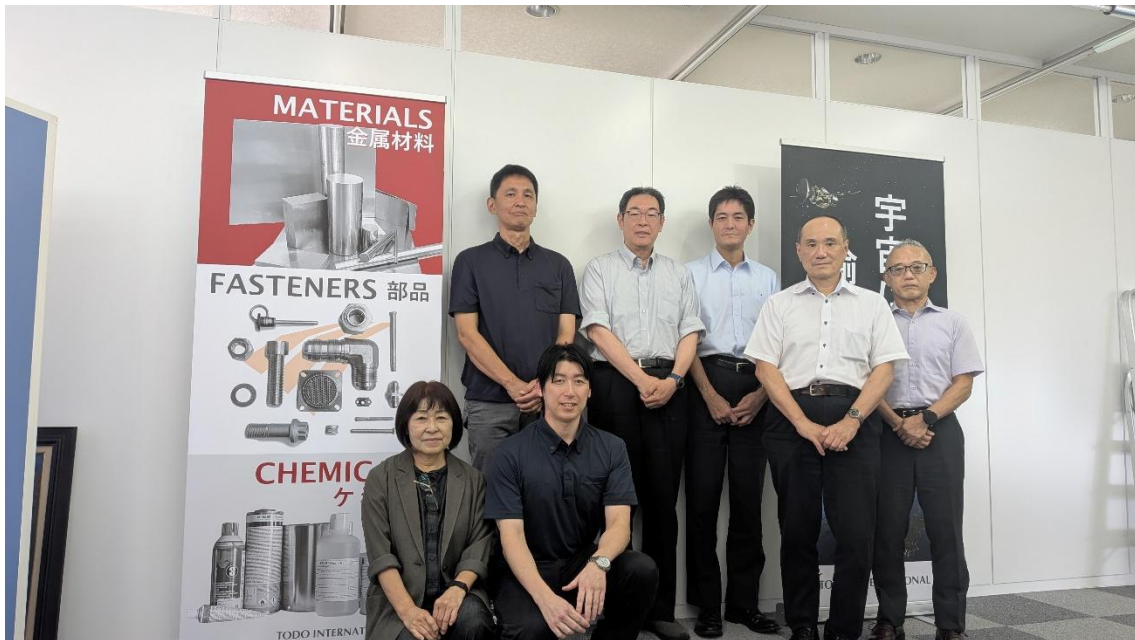
本企画は、9100 規格の動向などについて率直な意見交換を行い、協賛メンバーの方の現場の声を拾い上げるとともに、IAQG や JAQG に対して親近感を持っていただくことを目的としており、話しやすい雰囲気となることを心掛けました。訪問先については、昨年度の活動報告会時にアンケートを取り、JAQG 訪問の受け入れをしていただける協賛メンバーの方とさせていただきます。

この企画の第 7 弾として、2026 年 8 月 24 日、株式会社トードインターナショナル様への訪問を実施いたしました。

2. 株式会社トードインターナショナル様のご紹介

同社は 1991 年 3 月設立、資本金 1,200 万円、従業員 70 名の会社です。名古屋、東京、沖縄に拠点を置き、航空宇宙分野（特に防衛分野の MRO：整備・修理・オーバーホール）において、海外からの航空機関連部品等の輸入販売（輸入が 98%）を主体とする商社機能を有しています。さらに、一般的な商社機能に留まらず、一部の機械加工や特殊加工などの外注を取りまとめる製造・検査機能も有している点に特徴があります。「JIS Q 9100」認証をいち早く取得・維持しており、同社の品質マネジメント（QMS）に対する意識の高さが窺えます。

当日は、水野 QMS 管理部部長、幡野検査部長、曾根原氏の皆様にご対応いただきました。JAQG 側からは、三浦様（三菱電機）、西様（日本電気）、池崎様（IHI）および城福（SJAC）が訪問いたしました。



左から 幡野氏、水野氏、曾根原氏（トード）、城福（SJAC）、池崎氏（IHI）、西氏（NEC）、三浦氏（三菱電機）

3. JAQG からの説明



対面ならではのオープンでフランクな雰囲気のもと、担当者の実体験や解釈を交えた解説を行いました。

訪問先によっては「監査ではないか」と身構えてしまうケースもあるため、訪問の冒頭で、

まず今回の訪問の目的（監査ではなく、協賛メンバーの現場の声を拾い上げ親近感を持っていただくためのフランクな意見交換であること）を説明しました。このことで場が和み、その後の活発な意見交換に繋がったと思います。

3.1 JAQG/IAQG 紹介（説明者：SJAC 城福）

IAQG/JAQG の活動概要、ボランティアベースでの運営体制、規格開発への主体的な参画について説明し、日常的な疑問や要望の窓口としての JAQG をアピールしました。

3.2 規格の最新動向（説明者：IHI 池崎様、NEC 西様、三菱電機 三浦様）

9100 規格の改正動向を解説しました。特に、JIS Q 9100 が今回の改正では IAQG の民間規格としての IA9100 へシフトし、全世界的に発行時期を統一していく点や、新規の要求事項（人工知能、情報セキュリティなど）について、説明者自身の解釈を補足しながら丁寧に説明し、先方の理解を深めました。また、中小企業向け新規規格である「9150 規格」の概要や、自己評価ツール「AIMM」などについても併せて紹介しました。

4. 意見交換

商社ならではの悩みや QMS の実務における非常に深く実践的な議論が展開されました。特に印象に残った点をご紹介します。

4.1 9100、9120 規格について

トードインターナショナル様は「9100 認証」を維持されていますが、海外からの輸入販売を主体とする自社の業務実態に鑑み、今後、商社・ディストリビューター向け規格である「9120 規格」への移行も視野に入れておられるとのことでした。9100 認証と 9120 認証を同時に受けることに関する懸念などについて意見交換いたしました。

なお、9100 規格の遵守が現場での負担とならないよう、普段の作業が 9100 に即した手順となるように配慮しているとのことでした。

4.2 AI と情報セキュリティ

新規要求事項である「人工知能（AI）の使用管理」について、顧客から AI 管理に関して問われる機会が増えているとの現状が語られました。しかし、「Google 翻訳」等にも AI 技術が組み込まれている現状において、「社内で何が AI に該当するのか」を明確に定義し、全社的に教育・理解させることに難しさを感じておられるとのことでした。

JAQG からは AI 活用リスクとして「情報セキュリティ（機密情報の流出防止）」や「ハルシネーション（嘘の出力）の防止」を課題として挙げ、クローズドシステムが望ましいが、中

小規模では対応が難しい等、実務的な観点での議論がありました。

4.3 社内教育について

9100 規格の「7.2 項（力量）」に極めて真摯に取り組まれている点が大変印象的でした。同社では、継続的な品質意識向上が不可欠であるとの認識のもと、お客様からのコメントをフィードバックする機会や、外部講師を招いての講習、および社内の勉強会を頻繁に実施されているとのこと。QMS 管理部様の積極的な姿勢がうかがえました。

4.4 模倣品の防止（8.1.4 項）

今回の改正で「要求事項」へと格上げされる「模倣品の防止（8.1.4 項）」に関し、同社の独自の取り組みについて紹介されました。

具体的には、受入検査において全製品の写真を撮影し、その検査記録（製品外観記録）をデジタルデータとして保存する社内システムを構築されておられるとのことでした。受入時に疑義が生じた場合には、過去に撮影した同製品の写真と見比べることで相違点を確認できる仕組みになっています。お客様から製品に関する問い合わせがあった際にも、保存された写真から即座にその中身や状態を確認して対応できる体制が整えられており、大変丁寧かつ誠実に仕事をされている印象を受けました。

これは当初品質記録のシステムとして開発されたものでしたが、模倣品へも応用できることから、有効に活用されているとのこと。また、模倣品に対するリスク管理として、関連する最新情報を自ら入手し、リスト化して社内共有するという活動を実践されています。これらは訪問メンバーにとっても非常に参考となる事例でした。

4.5 Sub-tier（下請）管理

従来は契約上の関係性などから、加工委託先などの下請（Sub-tier）へのアクセスに対する難しさがあるとのことでした。規格改正後は、管理要求が明記されることで、「下請先に対しても質問や確認がしやすくなる」というメリットがあるだろうとのコメントがありました。

4.6 納期管理について

納期管理の維持については、何をどこまでやるかという悩みはあるものの、認証機関からも積極的にアドバイスを受けていることが共有されました。

4.7 アジア圏の宇宙関係企業への QMS 浸透状況について

宇宙分野への進出状況としてはまだ限定的であるものの、東南アジア圏は航空宇宙分野への関心が高いと感じられているとのこと。シンガポールのエアショー等でアジア圏のサプラ

イヤが存在することは認知しつつも、管理体制が不明確であるために取引開始に至らないケースがあるなど、アジア圏における 9100 等の QMS 普及とインフラ整備には依然として課題があるとの見解が示されました。

5. 株式会社トードインターナショナル様からの声

大変暑い中、弊社へお越し頂き、ありがとうございました。9100 規格の改定状況を詳しく説明いただき、事前に取り組むべき課題が明確になりました。AI 管理及び情報セキュリティ対策に関して弊社の取り組みと課題などについて、意見交換ができ大変参考になりました。

また、航空機の需要予測のデータを基に、今後の日本の航空産業の期待と課題について、ご教示頂き大変興味深い内容でした。

皆様ご多忙の中、貴重なお時間を割いていただいたことに、改めて深く感謝申し上げます。今後ともご指導のほど、何卒よろしくお願いいたします。

6. 最後に

今回のトードインターナショナル様への訪問は、国内で「9120 認証制度」が本格的に立ち上がった時期と重なりました。今後 9120 の認証取得も視野に入れておられるとのことでしたが、力量向上や模倣品防止などに独自の優れたアプローチで真摯に取り組まれている姿勢は、訪問メンバーにとっても大きな刺激と学びになりました。

また、改正後の「AI 管理」や「下請管理」といった注目度の高いテーマについて、現場がどのような具体的な悩みやアプローチを持っているかを直接伺えたことは、今後の JAQG によるメンバーへの説明のあり方を検討する上で、非常に有意義な示唆となりました。猛暑の中、快く訪問を受け入れ、貴重な生の声を聞かせていただいた株式会社トードインターナショナルの皆様に、心より感謝申し上げます。

以上